



世界遺産アカデミーのメンバーによる世界遺産との出会いと活動の様子を紹介します。

NO.105 世界自然遺産 知床



世界自然遺産 知床五湖 湖畔展望台にて

Personal Data

賛助会員／世界遺産検定1級
磯智成（神奈川県在住・栃木県出身）

～流氷と食物連鎖・生物多様性～

私は、第26回の世界遺産検定1級に3回目の挑戦で合格することができました。一昨年、夏休みを利用して知床に行きました。

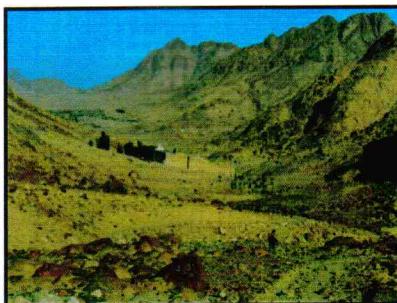
知床半島は、北海道北東部に位置します。この海域は季節海水域で、海水が結氷する場所としては、地球上で最も低い緯度にあります。冬につくられた流氷が、春に溶けて、海の栄養が豊富となり、食物連鎖が始まります。時期を狙って見に行くのは難しいですが、網走にあるオホーツク流氷館では、流氷について学んだり、体験することができますので、お勧めの場所です。

知床へのアクセスは、知床斜里駅より、バスで先ずウトロまで向かいます。知床半島は、海上から遊覧船に乗って半島を見学するコースと、半島内の陸地から知床五湖方面に行くコースの2つがあり、両方行くと、より楽しめます。

海上からは、海食崖やカムイワッカの滝が觀られ、コースによっては、半島の先端まで行くこともできます。また、陸地からは、ウトロからバスで、キタキツネやエゾリスを沿道に見つけながら、知床五湖に向かうことができます。私はバスを選んだのですが、途中、エゾシカが道路に現れて、緊急停車するハプニングがありました。知床五湖近辺では、ヒグマも出現することがあるそうです。

知床半島は、知床連山のもたらす多彩な気候・自然環境となっていて、多くの動物が生息し、日本の世界遺産で唯一、登録基準（x）の生物多様性が認められています（2017年4月現在）。最後に、私は頗著な普遍的価値を有する知床の自然の生態系を、未来に渡り保護・保全されることを願っています。

NO.106 聖カトリーナ修道院への道



シナイ山下山路より臨む、聖カトリーナ修道院

Personal Data

賛助会員・世界遺産検定マイスター
槙一彦（神奈川県）

世界遺産に登録された建物を特集した雑誌を見る機会があり、10数年前に訪れた「聖カトリーナ修道院」に目が留まりました。

当時の私は、エジプト・カイロから砂漠を進み、途中、スエズ運河を地下トンネルで通過し、シナイ半島へ。夕暮れ時、茶色く連なる岩山の麓のロッジに着き、仮眠。深夜12時半に起床し、深夜12時半に起床し、シナイ山へと向かいました。自分の横で動く大きな月影に驚きながら、年配の同行者を乗せたラクダとゆっくりと歩を進め、約4時間半かけて到達した山頂で、ご来光を迎えるました。陽が昇り、空が白み始めました。やがて青一色となった空の下に、緑などまっ

たくない薄茶色の山々が連なる世界が現れました。岩だらけの道を下山し、しばらくすると視線の先に、これまでの岩山の形とは違う、長方形の建物らしきものが。濃淡鮮やかな風景の中にポツリと建つ、聖カトリーナ修道院でした。「どうして、このようなものが、ここにあるのか」と驚きながら足を止め、質素に整えられた建物は、シナイ山登山者に対する施設のような印象でした。しかし、1500年前から現在も続く、世界最古のキリスト教修道院であることに興味を抱き、今は世界遺産を修学する者として、さらに深く追究していきたい遺産です。

NO.107 紀伊山地の霊場は神秘的！



アーベンチャーワールドで飼育されているパンダたち

Personal Data

賛助会員・世界遺産検定マイスター
大村 浩一（埼玉県）

去年の9月に、友人と三人で、世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』に車で行ってきました。熊野古道にある那智大社・本宮大社・速玉大社のうち、実際に訪れたのは那智大社のみで、後の二つの大社は近くを車で通っただけですが、神秘的な場所に来たという印象を強く受けました。那智大社では別宮・飛瀧神社の御神体の那智の大滝に着くまで何段も階段を下り、いざ実物を前にした滝の壯厳さは、この滝を崇敬していた昔の人々の気持ちが強く伝わってくるほどのものでした。また、山の上にある那智大社と青岸渡寺では、この地が那智の滝を中心とした神仏習合の一大修験道場であったことを実感できました。

初日の宿を近隣の十津川温泉にとったこともあり、車で幾つものトンネルとヘアピンカーブを通り、「熊野古道」という標識を何度も見かけました。十津川温泉の近くには、山深い大峡谷に架かる「谷瀬の吊り橋」という、スリルあるスポットもありました。二日目は、南紀白浜にあるアーベンチャーワールドで多くのパンダを見て、那智勝浦のホテル浦島にある、太平洋に面した洞窟内の、圧巻の半露天風呂「忘帰洞」で、旅の疲れを癒しました。

今年の世界遺産委員会で、女人道・關雞神社など22カ所が追加登録された『紀伊山地の霊場と参詣道』は、日本の神秘を肌で感じられる場所でした。